

IV 研究奨励校・研究指定校における研究実践

1 室蘭市学力向上事業に関わる研究奨励校

(1) 室蘭市立天沢小学校

(兼室蘭市パイロットスクール事業研究指定校)

【研究主題】

『 自ら考え、互に高め合う子の育成 』
～学ぶ楽しさを実感できる算数科学習指導の研究～

(2) 室蘭市立本室蘭中学校

【研究主題】

『 基礎的・基本的な学習集事項を身に付け、
筋道を立てて考えたり表現したりする生徒の育成 』
～授業工夫の実践による基礎的・基本的な学習事項の定着を通して～

2 室蘭市パイロットスクール事業に関わる研究指定校

(1) 室蘭市立水元小学校

【研究主題】

『 自分の考えをもち、主体的に課題解決できる子の育成 』
～基礎・基本を定着させ、一人一人が学ぶ楽しさを味わうことが
できる算数指導を通して～

(2) 室蘭市立室蘭西中学校

(兼第43回北海道特別活動教育研究会 胆振・室蘭大会)

【研究主題】

『 心豊かに意欲的に学ぶ生徒の育成 』
～基礎・基本の定着を目指した教科指導の工夫、
よりよい生活をつくりあげる力を高める特別活動を通して ～

(3) 室蘭市立星蘭中学校

【研究主題】

『 生き生きと学び、主体的に活動する生徒の育成 』
～ 言語活動の充実をはかった問題解決型学習の工夫を通して ～

I 研究主題

自ら考え、互いに高め合う子の育成 ～学ぶ楽しさを実感できる算数科学習指導の研究～

II 主題設定の理由

本校の児童は、授業に意欲的に取り組める子が多い。しかし、家庭生活において「進んで学習する」という力は弱く、家庭学習習慣が定着していない。また、学習内容が分からなくても「まあいいや。」と分からないところをそのままにしている現状がある。そのため、学級の中で学力差は大きくなり、二極化が生じ、下位の子の割合が大きくなりつつある。

さらに、各種学力検査などの結果から、算数科における基礎的・基本的な知識・技能の定着、題意を読み取って必要な情報を整理し、問題を解く力（活用の能力）に課題が浮かび上がった。

この課題を解決するためには、これまで行ってきた学習活動を見直し、確実に基礎・基本を身に付けるとともに、活用の能力を伸ばすことのできる「分かる授業」「子どもが充実感を感じられる授業」を工夫していかなければならない。

そこで、算数科を窓口とし指導過程を工夫し、学習活動のパターン化や学習形態を工夫することにより、自ら考え、互いに高め合う子の育成を目指して、本研究主題を設定した。

III 主題のおさえ

○「自ら考え」とは

「分かった！できた！ほめられた！」が学習意欲のもとになること。

学習意欲が自ら取り組むエネルギーになること。

自ら取り組むようになれば、自ら考えるようになること。

○「互いに高め合う」とは

教え合う、助け合う、交流し合う。隣同士、グループ、全体でなどで行うこと。

目的、方法等をはっきりさせ、交流し合うことで、互いに高め合うことが可能になること。

○「学ぶ楽しさを実感」とは

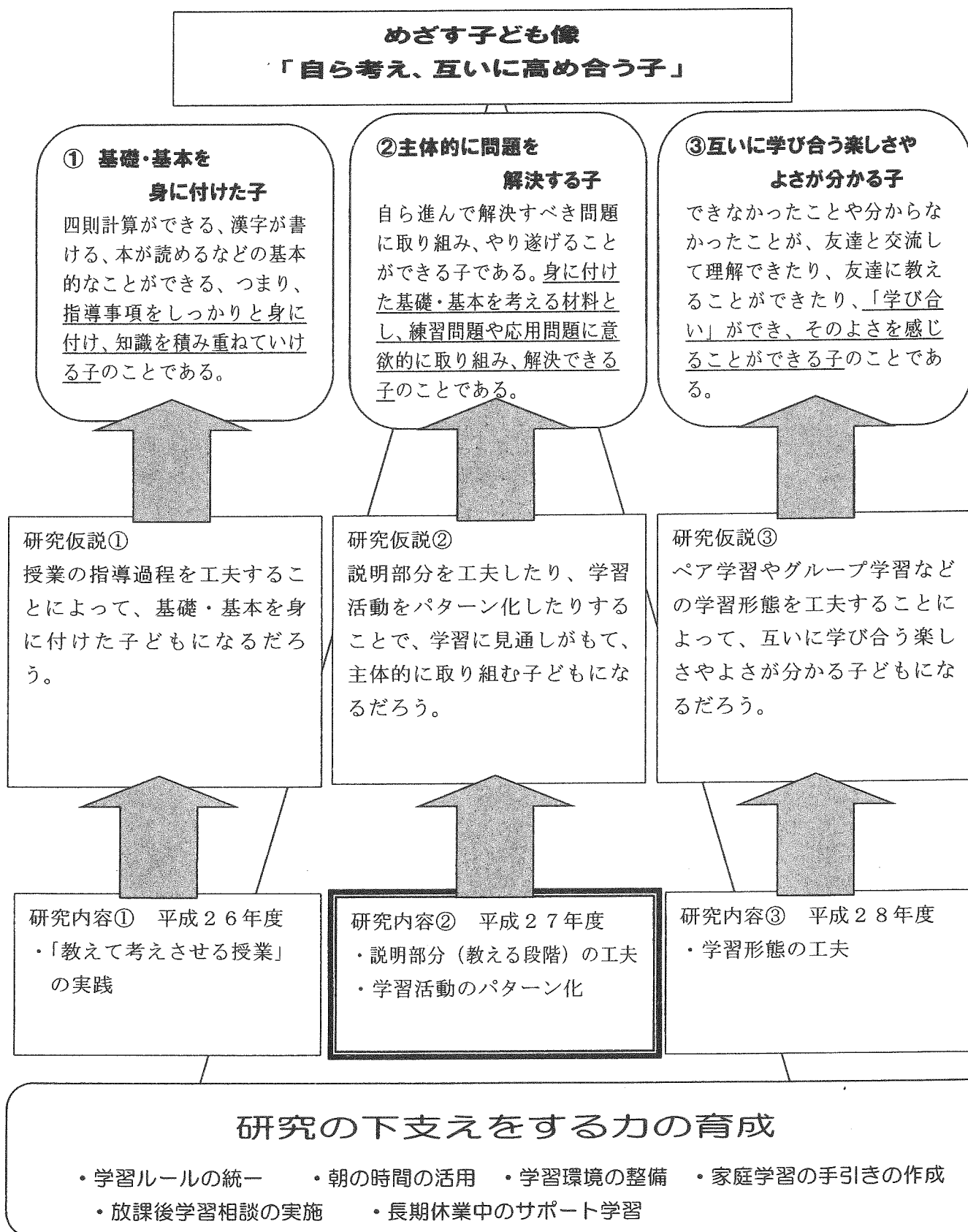
できなかったこと、分からなかったことが、「できた！わかった！」につながる。

友達に教えることができた！友達に教えてもらって「できた！わかった！」につながる。

友達と交流して、「自分では気付かなかったことに気付いた。」等、このような経験の積み重ねにより、学ぶ楽しさを実感するようになること。

IV 研究の全体構造図

研究主題で目指す「自ら考え、互いに高め合う子」をさらに具現化した。



V 研究内容

(1) 1年目 研究内容①「教えて考えさせる授業」の実践

東京大学大学院教授の市川伸一先生が提唱されている「教えて考えさせる授業」を実践している。

<「教えて考えさせる授業」天沢バージョン>

① ② ③ チャ ④

段階		
	(予習)	・教師から教わる部分を授業の前に教科書などで下調べしてくる。 ・完全に理解してくることが目的ではなく、ある程度予備知識をもって学習しやすい状態にすることが目的。 ・「予習でわからなかった疑問点」をもって授業に臨むことも大切。
教える	説明	「考えさせる」段階で必要となる知識をわかりやすく教える
		① (めあて) …この時間に何をするのか、何をを目指すのかを明確に示す。 ・教科書の例題で教える。 ・具体物や映像を見せて教える。 ・作業をさせる。 ・児童と対話しながら教える。
		② (大事) …理解すべき学習内容。めあてを達成するためのポイントをまとめる。
		☆説明がどのくらい理解できたか、理解度チェックを行う
考えさせる	理解確認	類似問題に取り組んだり、子ども同士の教え合いや説明活動などで、理解を図ったりする。 ・類似問題 ・教科書の練習問題 ・ペアやグループでの説明活動 ③ (確認問題) …大事なことを理解しているか確かめる内容。問題を解くだけではなく、理解したことを説明する活動も含まれる。
	理解深化	獲得した知識や技能を活用して、発展問題に取り組み、理解を深めさせる。 ・教科書の発展問題 ・誤答しやすい問題 ・間違い探し問題 ・穴あき問題 ・誤答修正問題 ・問題づくり ・協同学習を取り入れ、問題解決を図る。 チャ (チャレンジ問題) …理解内容を利用した、発展的な問題。

自己 評価	学習の振り返りをして、自分の理解状態を自己診断できるようにする。 ・理解度チェックを行う ・わかったこと、わからなかったことを書く ・記号で評価させる ㊟（まとめ）…自己評価のこと。分からなかったこと、分かったこと、授業の感想を書いたり、記号で評価したりする。	
----------	--	--

（２）２年目 研究内容② 説明部分（教える場面）の工夫 学習活動のパターン化

説明部分（教える場面）の工夫

「考えさせる場面」で子どもたちが考える時間を十分に確保するためにも「教える場面」の内容を精査し、時間をかけ過ぎない授業作りを目指す必要があると考えた。昨年の課題で「説明する段階で時間がかかり過ぎてしまった」という反省が多く出されたこともあり、今年度は「教える場面」で「いかに短時間で子どもたちに理解させるか」を研究している。

<ポイント>

- ①教師がその授業をよく理解し、「何を理解させる時間なのか」をはっきりさせて授業作りをすること。
- ②レディネステストで実態を把握し、困難度査定をする。そして、難しいところこそ時間をかけ指導するよう授業を組み立てる。
※困難度査定→子どものつまずきそうな所、難しい所を想定しておくこと。
- ③視覚的な教材・教具の提示や子どもたちが作業をする活動など、効果的な学習活動を取り入れる。扱う問題、書かせる言葉などをしぼることも大切。対話は１対１にならないようにする。
- ④全員が短時間の説明でわかるといいが、この場面ではまだ「生わかり」の状態でよい。どの程度わかればよしとするか、自分の中で線を決めておき、潔く先に進むこと。（説明の場面だけで完全に理解させようと思わない。（理解確認を終えるまでに理解していればいい！）
- ⑤説明部分で理解できなかった子に「確認問題」の段階でどう支援するかを事前に考えておくこと。

<実践例 １年生算数 「ひきざん（２）」>

（２）指導の工夫

①学習上の困難と指導上の問題点

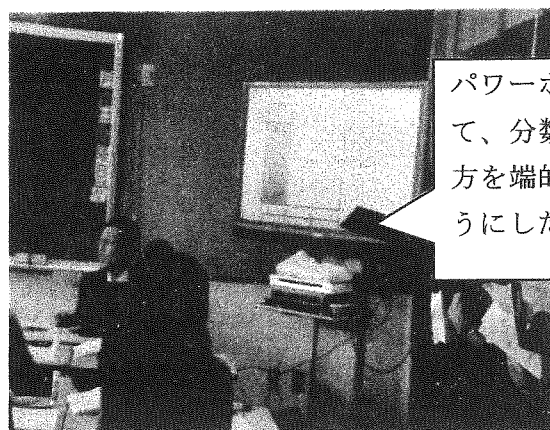
- ・レディネステストで「３つのかずのけいさん」に不正解が多かったので、１０からひいた後に、何をしたらよいかかわからなくなったり、ひいて終わってしまったりすることが考えられる。
- ・頭の中だけで答えを求めることに困難を感じる児童がいる。
- ・言語化することに戸惑ったり、すぐに覚えられなかったりするこ

レディネステストで困難度査定をし、指導案上に記載した。

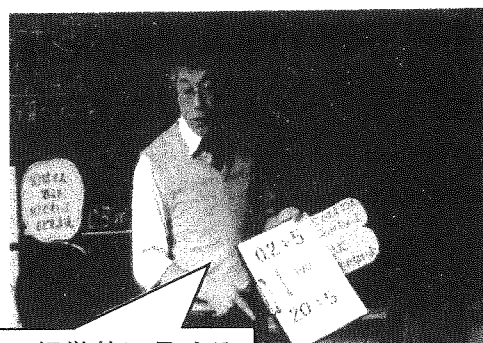
②教える場面

- ・立式・解決の手がかりとして、教科書の情景図や数図ブロックを掲示し、視覚的に問題の内容を理解させながら説明したい。
- ・ノートに書く時間がかかるため、スムーズに取り組めるよう、実物投影機でノートを映しだして例を見せる。

理解できなかった子にどう支援するかも考え、記載した。



パワーポイントを使って、分数÷整数の考え方を端的に説明するようにした。



教具を工夫し、視覚的に見せることにより、端的に説明するようにした。

学習活動のパターン化

確認問題を解いたら、「ペアで確認する」、チャレンジ問題を解いたら「グループで自分のやり方を説明し合う」など、様々な学習形態を使っている。ペア学習、グループ学習をまとめて「協同学習」と呼ぶことにし、「協同学習のやり方」を共通して指導していくことで、子どもたちも見通しがもて、自信をもって学習できるのではないかと考えた。

<基本型>

ペア学習

- ☐ 隣同士ペアを作る
- ☐ 窓側または廊下側から自分の考えを説明する
- ☐ 質問があれば質問する
- ☐ お互いの説明が終わったら、間違いを直したり、つけたしをしたりする

グループ学習

- ☐ グループを作る
- ☐ 順番に自分の考えを説明する
- ☐ 質問があれば質問する
- ☐ 全員の説明が終わったら、間違いを直したり、つけたしをしたりする

また、協同学習の「めざすところ」を子どもたちに知ってもらいより効果的ではないかと考えた。

協同学習のめあて

- ① 2人とも解けない→自分ができたところまでを発表し、考える。
- ② 2人のうち1人が解ける→解けない子が分かるように説明する。
- ③ 2人とも問題が解ける→お互いに説明し、時間があれば、前に出て説明する練習をする。

グループ学習は、解けない子はできたところまで、解けた子は解けない子が分かるように説明するということをめあてにします。

さらに、教師側がそれぞれの場面で、協同学習をする目的をもって行う。

例) 理解確認の際の目的→答え合わせ

型を使って説明できる

など

理解深化の際の目的→自分の言葉で説明する力をつける

わからない子が分かるように

など



VI 成果と課題

<成果>

◎説明部分の工夫について

- ・チャレンジ問題や自己評価までしっかりと取り組むことができるようになり、ほぼ時間通りに進められるようになってきた。
- ・デジタル教科書で視覚的に示すことで、問題と答えの意味がスムーズに子どもたちに伝わった。また、ノート指導が統一されてきた。
- ・「大事」を提示する際、「はじめに」「つぎに」「終わりに」という順序を意識させる言葉を使ったのは、算数に限らず他教科でも生かせる言語活動だった。

◎学習活動のパターン化について

- ・理解確認問題の協同学習の際、型を提示することによって、子どもたちはスムーズに説明をすることができた。
- ・分からないところやまちがいを協同学習で気付き、直すことができていた。

<課題>

◎説明部分の工夫について

- ・教える場面にあまり時間をかけすぎず、説明だけではなく、教師と児童の相方向による対話や作業をさせる活動を取り入れるとよい。
- ・子どもとの対話は1対1ではなく、全体のものになっていくとよい。

◎学習活動のパターン化について

- ・ペア学習を行うということは、座席が重要になってくる。どちらも説明できないとなると厳しい。意図的に座席を組むことも考えたほうがよい。
- ・グループ学習をうまく生かせなかった。本校としての「協同学習」の目的や流れを発達段階に応じてさらに明確にしていく必要がある。
- ・理解深化問題の説明になると、子どもがとまどっている様子も見られた。説明の型を用意し、理解確認で説明し合う。それを生かして理解深化での説明ができるとよいが、それが当てはまらない場合はどのような指導方法があるかを検討していく必要がある。

◎その他

- ・理解深化問題の精選、交流、蓄積
- ・自己評価のしかた
- ・授業で扱えなかった問題の扱い方
- ・予習のやり方

1. 研究主題

基礎的・基本的な学習事項を身に付け、
筋道立てて考えたり表現したりする生徒の育成
～授業工夫の実践による基礎的・基本的な学習事項の定着を通して～

(仮説1) 各教科において、生徒が目標を確実に達成するための授業工夫・改善を行うことで、生徒は学ぶ意欲を高めるとともに基礎的・基本的な学習事項を身に付けることができるだろう。

(仮説2) 各教科において、基礎的・基本的な学習事項を活用する場面や方法を工夫することにより、生徒は筋道立てて考えたり表現したりすることができるであろう。

2. 研究主題設定理由

本校では、本校の現状や地域性などから、「思考力・判断力・表現力の育成」の前段階として、「基礎的・基本的な学習事項の定着」を重視し、前年度は上記の研究主題を設定した。この研究主題に迫るための取組として、「目標の明確化」「基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫」「目標に対応したまとめ」を全教職員共通の取組の重点3項目と位置付け、研究を推進してきた。前年度の主な取組と成果、課題は以下の通りである。

<成果>

- ・全教員の共通理解のもと、これまでの研修を踏まえた研究主題を設定し、実践を進めることができた。
- ・手立てを明確にした共通の取組を設定することで、全教職員が同じ意識を持って、授業改善・工夫を行うことができた。
- ・各教科等の指導において、基礎的・基本的な学習事項を身に付けたこと等により、主体的に学習に臨む生徒の姿が見られた。

<課題>

- ・研究推進の継続性について、単年度の取組にならないようにする必要がある。
- ・重点3項目と位置付け、共通の取組としてきた「目標の明確化」と「基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫」については、どの教科においても概ね達成できたが、「目標に対応したまとめ」については、その時間の確保や方法に課題が残った。

3. 今年度の取組

(1) 研究授業の実施

授業の変容や改善などを見取るため、今年度は各部会3回の研究授業を実施した。

(2) 公開研究会の開催

3部会の研究授業を実施した。また、坂本勤氏を講師に招き教育講演会も実施した。

(3) 授業交流の実施

授業改善を図る機会として、部会毎の研究授業を6月に実施した。

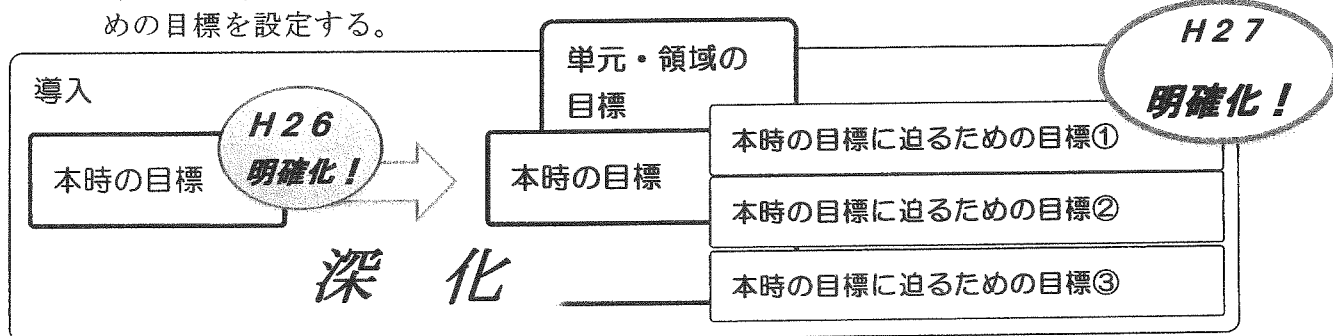
(4) 共通の取組

前年度同様、「目標の明確化」「基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫」「目標に対応したまとめ」を重点3項目と位置付け、全教職員の共通理解のもと、研究を推進した。

① 目標の明確化

前年度は、どの授業においても授業の始めに板書する、書かせる、大きく投影するなどといった実践を行い、一定の成果を上げることができた。これらを踏まえ前年度の取組を継続しながら、今年度は以下のことも共通の取組とした。

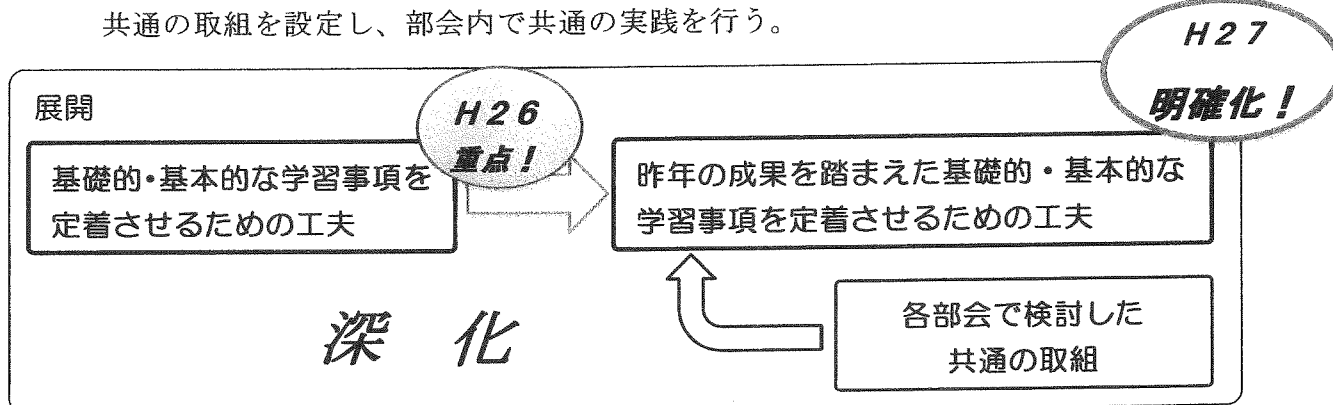
- i. 本時の目標のみではなく、単元や領域といったある程度見通しを持った大きな目標も生徒に意識させる工夫をする。
- ii. 本時の目標が比較的難易度が高い場合や理解しにくい場合などは、その目標に迫るための目標を設定する。



② 基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫

教科の独自性は保ちつつも、前年度は多くの実践を共有し、授業力の向上に努めることができた。また、その中で実践例を5つの項目（理解の促進、イメージさせる、定着させる、個に応じた指導、客観的自己評価）に分類することで、他の教科でもより授業しやすく共有することができた。これらを踏まえ、定着のための工夫をした取組を継続しながら、今年度は以下のことも共通の取組とした。

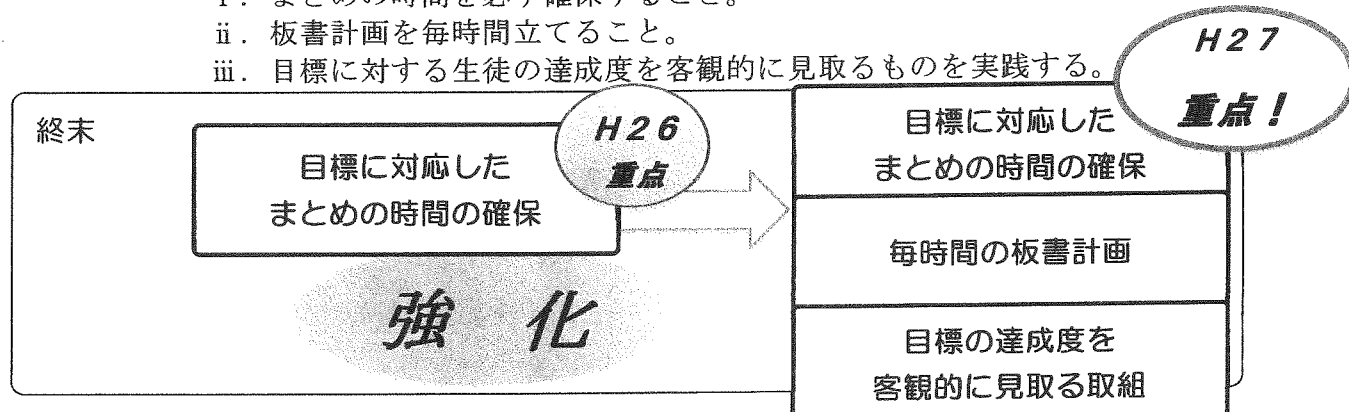
- i. これらの5項目の工夫を踏まえ、有効な工夫を実践する。その方法として、各部会で共通の取組を設定し、部会内で共通の実践を行う。



③ 目標に対応したまとめ

前年度は、まとめの時間を十分に確保できず、目標に対して生徒の達成度の客観的な見取りが十分とは言えない授業が散見された。また、板書に目標はあるがまとめがなかったり、1単位時間での板書や生徒のノートが構造化されていなかったりといった板書計画の甘さの指摘を受けた。これらを踏まえ、今年度は以下のことを共通の取組とした。

- i. まとめ時間を必ず確保すること。
- ii. 板書計画を毎時間立てること。
- iii. 目標に対する生徒の達成度を客観的に見取るものを実践する。



(5) 学力向上にかかわるその他の取組

① 放課後学習教室の充実

本校では、放課後学習教室（L [Learning] ルーム）を、学力向上講師が中心となって運営している。Lルームでは学習内容の補助や発展的な学習のための講習会を行ったり、部活動のない生徒の自習学習の場として提供したりしており、生徒の学びを促進する教室環境を整えている。



② 家庭学習の習慣化に向けた取組

各教科において、家庭学習の方法のオリエンテーションを1年生のはじめに実施している。家庭学習方法の徹底はもちろん、保護者にも周知し学級ごとに家庭学習提出のチェック表を導入するなどし、入学当初から教科の特性に対応した家庭学習に取り組むことができています。

4. 研究実践

(1) 数学科研究授業（平成27年6月12日 3校時 3学年 授業交流）

＜単元 中学3年「平方根」＞

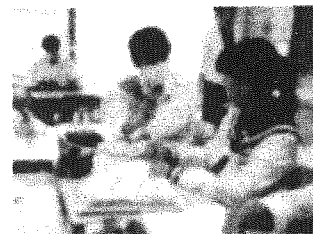
○ 研究仮説の関わり

理系部会共通の取組

【目標の明確化】

① 板書及びワークシート等で明確化、意識づけ

本時の具体的取組 授業の導入でマグネットを利用し、常に視界に入るようにする。



【基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫】

① 考え合い伝え合うグループ学習

本時の具体的取組 指定された面積になるような正方形をグループで考え、提示し、他者に伝える活動を通して、筋道立てた思考をさせ一層の定着を図る。

② ICT機器の効果的活用

本時の具体的取組 動画やスライドを用いて、正方形の分け方と実測値をわかりやすく伝え定着を図る。

【目標に対応したまとめ】

① 自己評価

本時の具体的取組 確認問題に自己評価欄を設け、目標の達成度を自己評価させる。

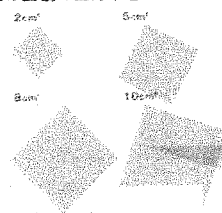
② 確認問題

本時の具体的取組 目標が達成を客観的に図るための確認問題（小テスト）を実施する。

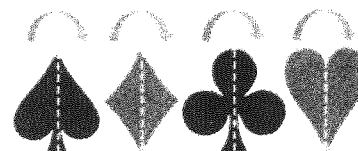
○ 研究協議より

- ・今回 ICT 機器の活用としてスライド（パワーポイント）で図形を動かし、視覚的に思考を補助するようなものを取り入れた。
- ・ICT 機器の活用といっても、授業のメインではなく、あくまで補助的な役割であることや、誰にでも使えることが重要と考え、パワーポイントという身近なソフトウェアのみを使用した。
- ・課題設定がわかりやすく、興味をひくものであった。特にプロジェクターで大きく投射し、実際に図形を動かしたことがわかりやすかった。

次の面積の正方形を作ろう！



- ・今回は平方根での利用だったが、このようなスライドは1年の図形領域、関数領域などにも応用ができるだろう。
- ・比較的容易に準備ができる ICT 機器活用が実用的でよい。
- ・教材が面白い。本時のような導入ならば、生徒が課題を解く中で疑問点を自然に見出し、本単元で学習することを意識できただろう。



線対称への活用例

(2) 音楽科研究授業（平成27年8月25日 4校時 2学年）
 <単元 中学2年混声三部合唱「虹」>

○ 研究仮説の関わり

芸体・特支部会共通の取組

【目標の明確化】

① 板書で明確化、意識付け

本時の具体的取組 授業の導入で板書し、目標を明確化するとともに意識付けを図る。

【基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫】

① 考え合い、伝え合うグループ学習

本時の具体的取組 パートリーダーを中心に協力しながらパート練習に取り組む。歌うときは起立し、聴くときは座るという約束事を定着させ、活動に応じた意識付けを図る

② ICT・AV機器の効果的活用

本時の具体的取組 録音した演奏を聴いた後は、パートリーダーに配布した練習日誌（評価用紙）をもとに反省を行い、演奏に役立てる。

【目標に対応したまとめ】

① 自己評価、グループ評価

本時の具体的取組 話し合いによるグループ評価と、評価用紙による自己評価を行う。

○ 指導案より

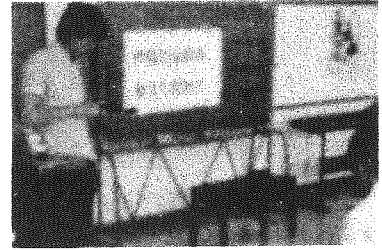
	○主な学習活動	◇ 教師の主な働きかけ	□評価方法 ■評価規準
導入	○前時までの音取り状況の確認 ・演奏を聴き、活動意欲を高める ○本時の目標を知る	◇前時に録音した演奏ファイルを再生する ◇目標の提示	既習事項の確認と前時の自己評価
	目標：声部の役割を考えながら歌おう (F)4 8 ～ 5 6 小節		
	○模範演奏を鑑賞する	◇模範演奏を再生する	取り組む箇所を絞って目標を明確にする
展開	○パート練習会場に移動 〔男声…第2音楽室に移動 ソプラノ…音楽準備室に移動 アルト…第1音楽室〕	◇パートリーダーにボイスレコーダーと携帯スピーカーを配布 ◇AV機器の扱い方についてパートリーダーに指示	ICT 機器を用いて自己評価とその改善を行う
	練習場所毎に目標を掲示	共通の取組② ICT 機器の効果的活用	□授業態度

○ 研究協議より

<重点3項目について>

① 目標の明確化

- ・目標の掲示がパート練習会場ごとに掲示してあり、生徒たちは常に目標を視界に入れながら練習することができていた。
- ・目標を達成するための小さな目標を細かく設定してあげるとよりわかりやすいだろう。

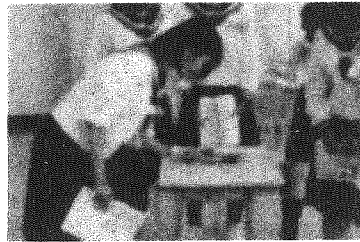


② 基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫

- ・学習規律がしっかりと行き届いており、パート練習の際も教師がいなくても生徒たちがルールを守って取り組むことができていた点が素晴らしい。
- ・ICT活用として各パートで録音機を用い、録音⇒再生⇒自己評価⇒改善ということをしてきたが、技術向上のみならず主体的に学習するという面においても非常に有効であった。



学習規律を守ったパート練習



録音機を利用した練習



録音を聞き、成果と課題を発表

③ 目標に対応したまとめ

- ・録音したものを聞き、良いところを見つけて褒めるという活動が意欲の向上に繋がった。
- ・評価用紙に記入するということを毎時間行うことで、単元を通しての自己評価ができる。
- ・目標に対して、まとめを正対させることを意識することで一層改善ができるだろう。

(3) 社会科研究授業（平成27年11月13日 5校時 3学年 公開研究会）

<単元 生産と労働「1. 企業の役割と意義」>

○ 研究仮説との関わり

文系部会共通の取組

【目標の明確化】

① 板書やノート等で、目標を明確化し、意識づける。

本時の具体的取組 黒板に目標を明示し、生徒自身に常に目標を意識させた学習活動を行う。

【基礎的・基本的な学習事項の定着のための工夫】

① 小テストなどの反復学習を行う。

本時の具体的取組 現実に関起っている事象を題材とすることで、学習に対するモチベーションを上げ、現実に近い形で理解させる。

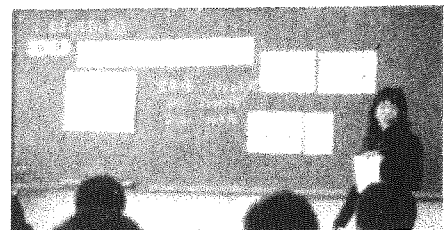
② 視聴覚機器やICT機器の効果的な活用で、学習内容を視覚に訴え明確化する。

本時の具体的取組 難解な事柄を視覚を通して理解させる。本時の学習事項を印象づけることを目的にICT機器を活用する。

【目標に対応したまとめ】

① 自己評価の工夫と活用、反復練習などを行う。

本時の具体的取組 プリントを使用し、本時の重要語句の定着を図る。本時で自分たちが考え学んだことと、実際の社会の中で起っていることは基本的に一致している、というまとめを行うことで、目標の定着や深化を図る。

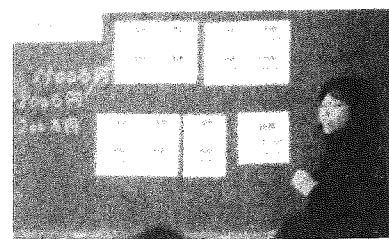


○ 指導案より

	○主な学習活動	◇教師の主な働きかけ	■評価規準□評価方法
展開 (後半)	○株主総会で決めることについて考えて発表する。 ○株主総会の役割を理解する 段階を踏んで 本時の目標に迫る ○モリオ氏の起業の目的を考える。 ○折茂武彦氏のねがいについて知る。 ○企業の社会的責任について理解する。	◇話し合った内容を班ごとに発表する。 ◇株主総会の役割について説明する。【図示】 会社の方針を決める。配当を決める。 役員を決める。 ◇モリオ氏が北海道にバスケットボールチームを作ろうとした目的は何か考える。 ・もうけたい ・少年たちの夢をかなえる ・北海道の人のため など ◇モデルとした折茂武彦氏について紹介。 折茂氏の考えを伝える。 部会共通の取組② ICT 機器の効果的な活用 ◇企業の社会的責任について説明する。	□発表 効果的な話し合い (言語活動)  □発表 本時のまとめと、 一層の理解を促す ための動画活用

○ 研究協議より

- ・「株を売る」「証券取引所の役割、しくみ」など、株式会社の基本事項をしっかり学ばせることが必要であるため、より重要な所に絞って授業を組み立ててあった。
- ・利益追求型ではない企業のあり方について、「夢」を叶えるための企業と、地域を活性化させる企業という内容とリンクさせることができれば、動画の内容はより有効であった。
- ・社会的責任と企業のあり方についてのまとめ方については、企業の社会的責任を考えさせることも教えたかったが、道徳的な内容になってしまう。
- ・終末では、生徒が何を学んだのか明確に理解することが大切であり、学習内容の定着と振り返りまでできるように、授業のタイムマネジメントを工夫するとよい。



5. 今年度の成果と課題

<主な成果>

- ・ほぼ全ての教科において、授業の導入で生徒に目標を明確に意識付けすることができた。
- ・部会毎に共通の取組を設定したことにより、他教科における様々な取組をそれぞれの教科で実践することが容易になり、一層の授業改善につながった。
- ・まとめの時間を毎時間行うことによって、目標を達成できたという意識を毎回生徒が持つようになり、学習意欲の向上にもつながった。

<課題>

- ・今後は、より具体的で生徒が意識しやすいといった目標の質を高める取組が必要である。
- ・今年度は基礎的・基本的な学習事項の定着を前提とする仮説2の検証までには至らなかった。教科毎の実践としては当然、言語活動を意識し既習事項を活用した授業を行ってきたが、校内研修としては次年度に取り組んでいくものとした。

1 研究主題

「自分の考えをもち、主体的に課題解決できる子の育成」

～基礎・基本を定着させ、一人一人が学ぶ楽しさを味わうことができる算数指導を通して～

2 研究主題設定の理由

本校では、平成 23 年度から平成 25 年度までの 3 年次計画で、「伝え合う力」の育成～友達の考えを受けて話し合い、自分の考えを深め、表現する子どもを目指して～」として、研究を進めてきた。

3 年間の研究により、①クラスの中で安心して学習に取り組める環境をより一層整えることができた。②発表に必要な声の出し方、話し方のスキルが向上し、「伝え合う力」が身についてきた。

一方で、①この 3 年間で培った力を他教科でもいかしていく必要がある。②算数の基礎学力定着のための方策を全校で研修したい。③学習に受け身的な面がある等の意見が出された。

そこで、昨年度よりこれまでの研修を土台として、算数指導を軸に据え、より自分なりの考えをもって主体的に課題解決できる子の育成を図る実践的な検証を行うため、本主題を設定した。

3 目指す子ども像

【低学年】

学んだことを使って、自分なりの考えをもち、課題に取り組むことができる子

【中学年】

既習事項を使って、課題に対する見通しをもち、自分なりの考えを解決にいかすことができる子

【高学年】

既習事項を活用し、自分なりの解決方法を見出し、筋道を立てて課題を解決することができる子

【特別支援学級】

学んだことを使って、課題解決できる子

4 研究仮説

仮説 1

本時のねらいを明確にした問題提示や課題設定、適用問題が組み込まれた課題解決的な学習に加え、思考の流れが構造化された板書とノート指導を展開することによって、基礎的・基本的な学力の向上につながるだろう。

仮説 2

課題解決のための効果的な算数的活動や自力解決のための効果的な手立てを工夫することにより、自分なりの考えをもたせることができ、児童同士の交流から、自分の考えを深めることで、より主体的な学びにつながるだろう。

5 研究の視点

視点1

- ・レディネステスト(プレテスト)の実施
- ・机上スタイル
- ・「ふりかえり学習」
⇒「元小スタイル」の確立

基礎・基本を定着させる授業づくり

- ・課題解決的な学習過程の工夫
- ・明確なねらいに応じた問題提示・課題設定・適用問題の工夫
- ・思考の流れがわかる板書とノート指導の工夫
- ・朝学習、家庭学習、宿題の取組の工夫

視点2

- ・ワークシート、ヒントカード、掲示物などの工夫
- ・「考えなおし」「一般化」のための工夫
- ・ICT等の活用

自分なりの考えをもたせ、主体的な学びにつながる授業づくり

- ・課題解決のための効果的な算数的活動の工夫
- ・自力解決のための効果的な手立ての工夫
- ・児童同士の交流から自分の考えを深める学習の工夫

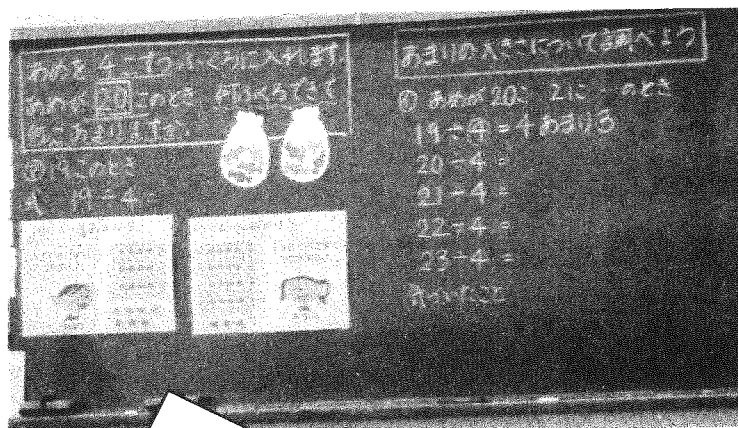
6 研究の内容

(1) 課題解決的な学習過程の工夫



「ふりかえり」を適切に

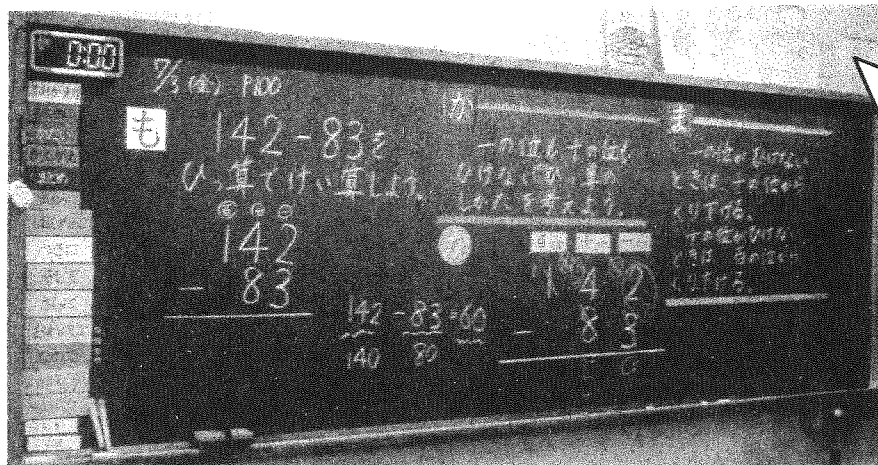
「課題」から始まる。課題の後に、本時の課題解決へとつながる「ふりかえり」を設定。



課題解決への見通し

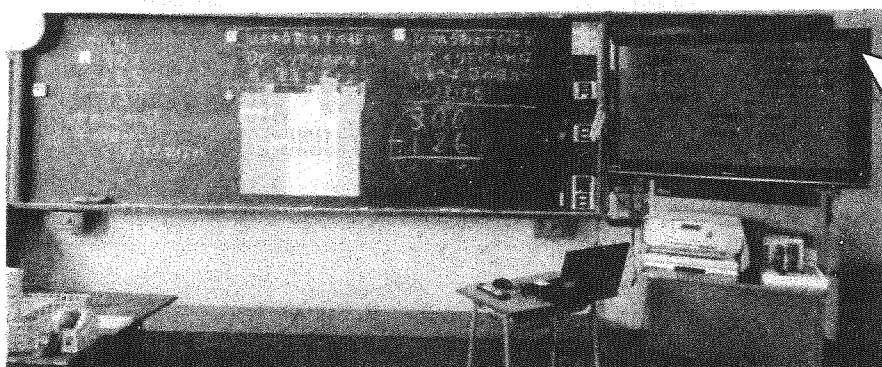
「問題」「ふりかえり」「課題」へとつながる。課題解決への見通しをもたせるため、掲示物を提示。

(2) 思考の流れがわかる板書



色分け

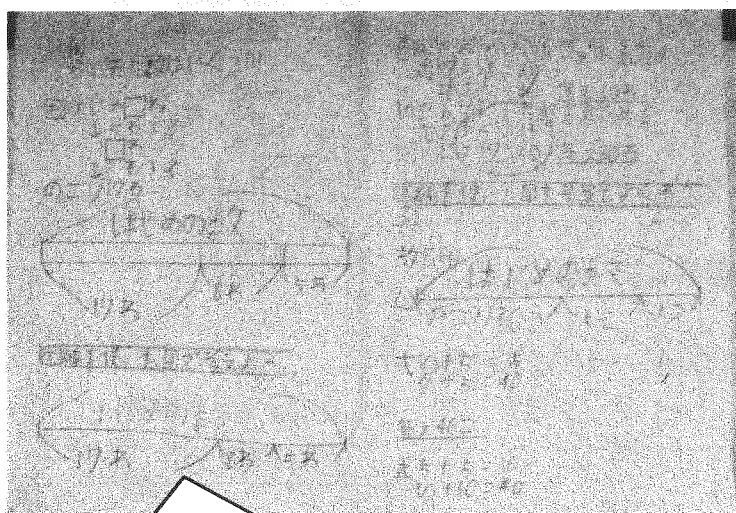
「課題」は赤、
「まとめ」は青でチョークを色分けして囲い、一目でわかるようにする。



ICTの活用

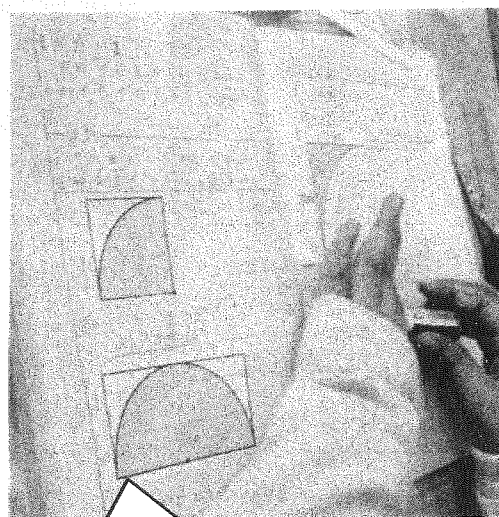
板書に収まりきらない児童の考え等を
実物投影機等を使用してテレビに投影。

(3) ノート指導の工夫



構造化された板書と連動したノート

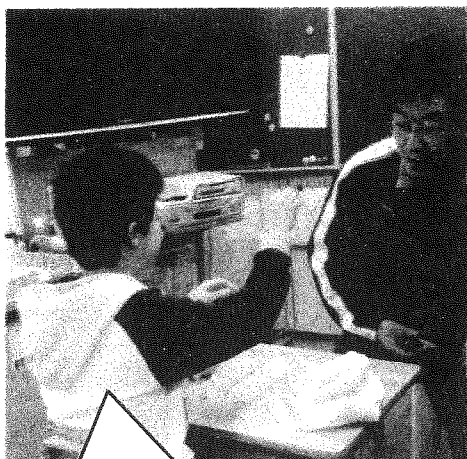
構造化された板書と連動させるとともに、自分の考えをていねいにまとめたノート。



プリント添付ノート

図形領域の学習は、プリントをノートに直接貼って学びの足跡にする。

(4) 算数的活動の工夫



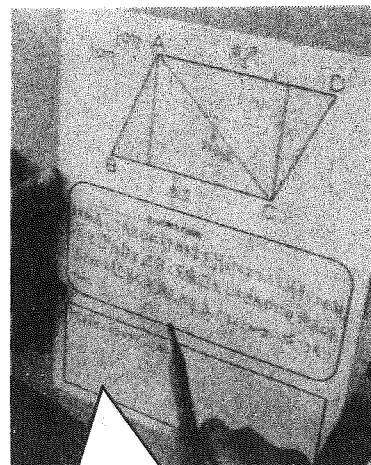
具体物や半具体物を使用

より課題解決へのイメージをもたせるため、具体物や半具体物を操作できるようにする。



実測(外的思考)

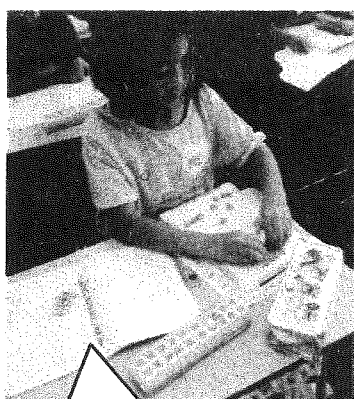
体積を見積もるため、実測して計算する。



式・図・絵(内的思考)

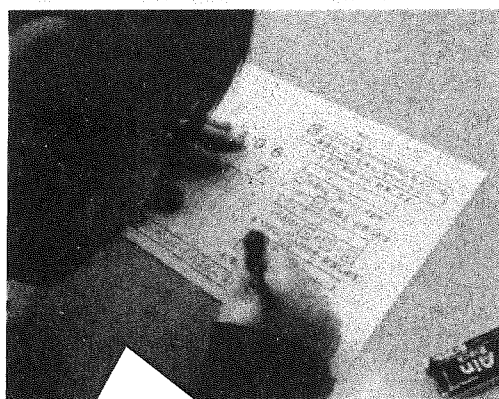
面積の求め方を補助線を引きながら、式や言葉を使って思考。

(5) 自力解決のための手立ての工夫



半具体物の操作

個に応じた指導として、操作させる。



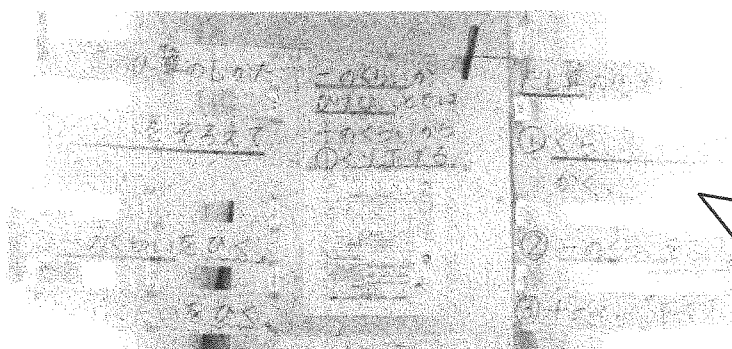
児童の実態に合わせたプリント

児童が自ら選べるよう、数種類(難易度別)のプリントを用意。



教え合い

友達との教え合い活動でより明確に。



ふりかえりのできる掲示物

ふりかえりができ、児童が情報を取捨選択しながら、自力解決への足掛かりとなる掲示物を工夫。

(6) 児童同士の交流から考えを深める工夫



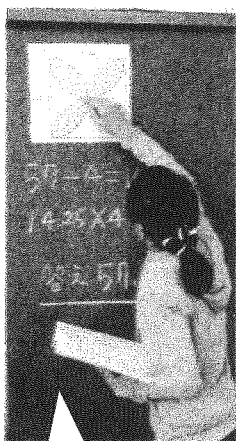
自分の考えを発信

ワークシートを投影し、自ら考え方を発表。



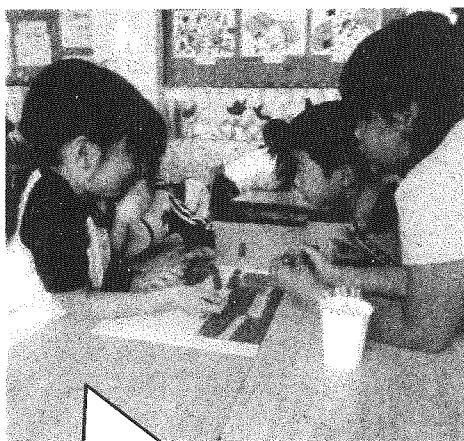
操作活動をライブで

実物投影機を利用し、操作の仕方を投影しながら発表。



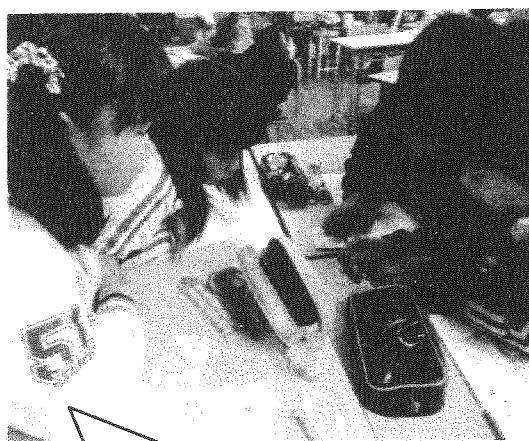
発表

拡大プリントを使って説明。



考えをまとめる

それぞれの考えを発表し合い、半具体物を操作して明確化させる。



よりよい方法へ

プリントを用いて、それぞれの考えを発表し合い、他者の考えを知り、よりよい方法を考える。

7 まとめ

(1) 継続していきたい取組

課題解決的な学習過程の工夫

「問題」「課題」「考え」「まとめ」「適用問題」までの学習過程を意識した授業構築。（「ふりかえり」は効果的に行う。）

ノート指導の工夫

思考の流れがわかる構造的な板書と連動させ、「課題」と「まとめ」が整合し、考えがしっかりと記されたノートへ。

ICT の活用

「ねらい」に応じて、効果的に取り入れる。（ICT 機器の利点と欠点をしっかりと把握して、意図的・計画的に活用。）

児童同士の交流の場の工夫

あくまでも自力解決後に設定することで、より深い学びへとつながると考え、効果的に設定する。

(2) 検討していきたい取組

自力解決のための手立て

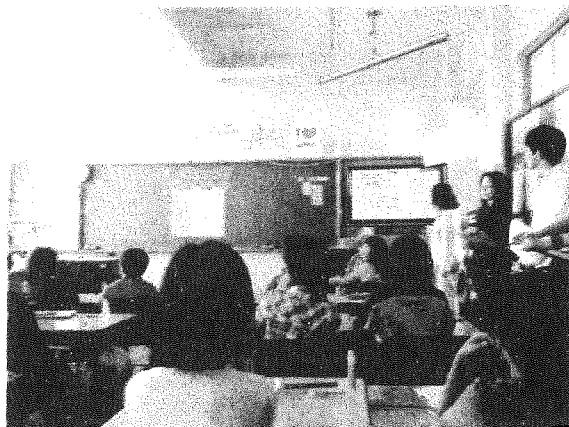
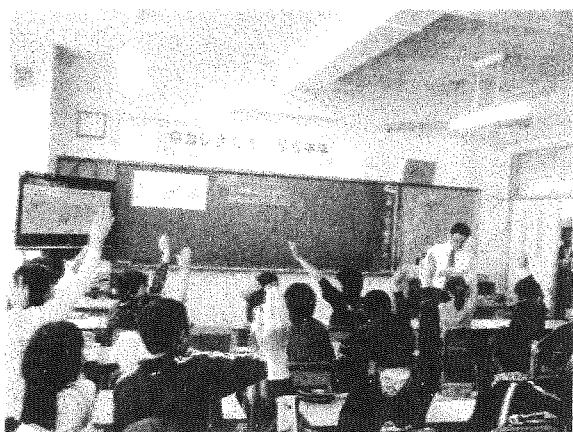
個に応じた指導の充実を図るためにも、レディネステストでの実態把握や効果的ないくつかのアプローチを探る。

ねらいを明確にした児童同士の交流

話し合いをさせるためのねらいは何なのかを明確にし、座席等の整備や交流方法を探る。

課題解決的な学習過程における時間配分

「ふりかえる」「つかむ」「かんがえる」「ふかめる」の学習過程の時間配分を児童の実態に応じて探る。



1 研究主題

- 学校の落ち着き、放課後の部活動、教育相談、補充学習の時間を奪わない。
- 教科指導、学級・学年指導の学活、特別活動、(または部活指導) 両面から迫っていかれたらと考えました。
- 教科指導では、生徒学習アンケート分析を基にしています。『機器の活用』『学習形態(グループ、ペア)の工夫』『問題解決型を取り入れる』など、それぞれの先生の持ち味、様々な工夫で課題、主題に迫っていかねばと思っています。

心豊かに 意欲的に学ぶ 生徒の育成

～基礎・基本の定着を目指した教科指導の工夫、
よりよい生活をつくりあげる力を高める特別活動を通して～

2 主題設定の理由

生徒はおおむね良い表情で学校生活を過ごしているが、調査結果から特徴的なことは次の4点である。

①『最後まで課題に取り組むが受動的であり、意欲的に学ぶ取組が不足している』

②『基礎・基本を定着させ、学力を向上させてほしい、させたい』

③『疑問を解決する力、自ら学び考える力を身に付けさせたい』

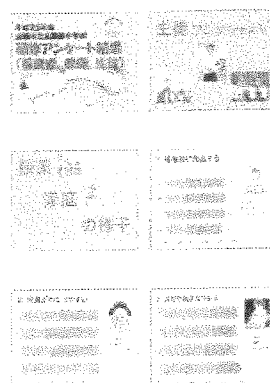
④『授業のルール・マナーを守り、落ち着いた生活を過ごさせたい』

学校教育の果たす役割として『学習意欲を高める』『基礎・基本を習得させる』『課題を解決する思考力・表現力を育む』ことが明確化されている。

『確かな学力』を育むための具体的な手立てを確立することが本校の学習指導においても求められている。

それらを育成するためには、まずは内因的な学習意欲が大切である。(『意欲⇒基礎・基本が身に付き⇒それらを活用し思考・判断・表現力が高まり⇒自ら学び、自ら考え、解決する力が育まれる』ものと考える。)

本校では、その『意欲』を育て学力の向上を図るとともに、多くの保護者が学習のみならず『心の豊かさ』の育成も本校に望んでいることも加え、その結果として心豊かに活動する生徒の顔があふれる学校を創り出していきたいと考えこの主題を設定した。



3 研究主題のおさえ

(1)「心豊かに」とは、

- 自らを律しつつ、授業のルール、受け方のマナーを守り、発表には心を込めて聞くなど、周りを思いやる心

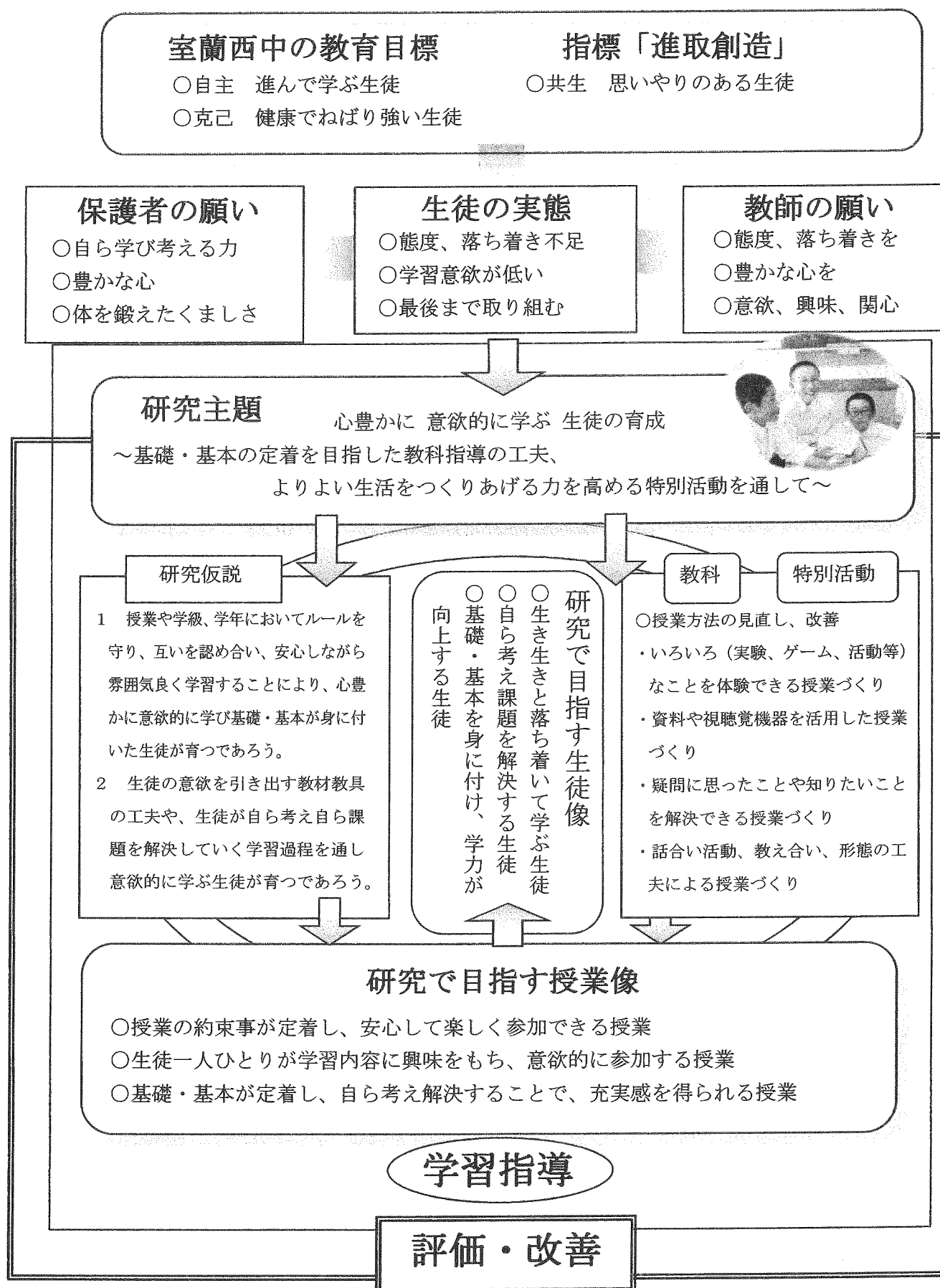
- 良い発表に感銘し、正しいことや公正さを大切にする心、他を尊重する心



(2)「意欲的に学ぶ」とは、

生き生きと活動に取り組み、級友に認められる喜びを感じる生徒の姿をいう。また、自分で課題を見つけ、自ら学び、よりよく問題を解決し基礎・基本を身に付ける力である。

4 研究の全体構想



5 特別活動（学級活動）の主題へのせまり方

研究主題

心豊かに 意欲的に学ぶ 生徒の育成
～基礎・基本の定着を目指した教科指導の工夫、
よりよい生活をつくりあげる力を高める特別活動を通して～

目指す子ども像

豊かな心、人間関係形成力を築き、
確かな学力をもつ子

落ち着いた生活、学力
向上の土壌づくり

ねらい・手立て

自立

共生

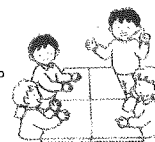
特別活動（主に学級活動）の充実で

- ・ よりよい人間関係、教師の指導のもと、進んで問題を解決します。
- ・ 「仲間に必要とされている」「自分も役に立っている」など自己有用感を育みます。
- ・ よりよい生活・人間関係の深まりにより、間違いを恐れず安心して学習に取り組めます。安心感がある中では、のびのびと自己表現でき、教え合い、切磋琢磨し互いに学び合っていくような学級の雰囲気醸成していくことができます。
※ 支持的風土の醸成やいじめのない学級づくりにつながります。
- ・ 学力向上へつながります。



実践活動へつながる話し合い活動

- ・ 討論ではなく、知恵を出し合って、折り合いを見出す集団討議です。
- ・ 話し合い活動は、教師の適切な指導の下、児童・生徒によって自主的に行われます。
- ・ 小学校→学年の発達段階と内容に応じた自主的な話し合い活動を展開します。
- ・ 中学校→学級・学年組織を活用しながら、自治的な話し合い活動を展開します。
- ・ 学級活動の一連の流れは、「準備（計画委員会）→学級会→実践」です。
- ・ 学級会では話し合いの3本柱（何をするか、どんな工夫ができるか、どんな係が必要か）と3段階の討議法（出し合う→比べ合う→まとめる）を進めていきます。



その他の手立て

- ・ 板書を工夫します。（思考の可視化、操作化、構造化）
- ・ 学級掲示を工夫します。（学級会や係活動コーナー、議題ポストや提案カード等）
- ・ 特別活動リーフレットを活用します。



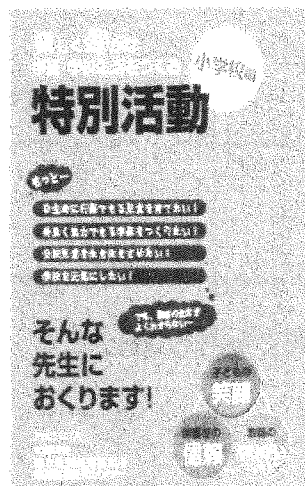
6 授業づくりのポイント・指導案の書式等

(1) 楽しく豊かな 学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編

平成25年7月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター

(2) 学級・学校文化を創る 特別活動 中学校編 学級活動の基本 話し合い活動を中心にして

平成26年6月 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センターに基づく。



学級活動指導案作成の基本

指導案（略案）を書くことにより、先生自身の思考が整理され、生徒の姿や活動の流れがより明確になるはずです。



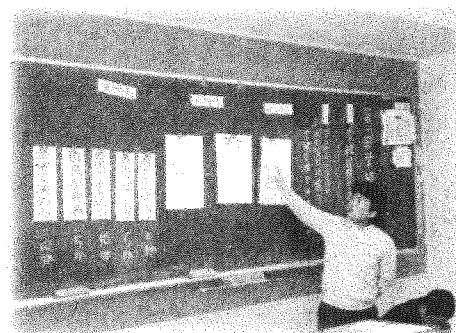
7 授業づくり

(1) 話し合い活動による「よりよい生活、人間関係づくり」

ポイント

- ①可視化
 - ②操作化（意見を短冊に）
 - ③構造化
 - 話し合いの柱
 - 問題の共有→何を改善?→方法は?
 - 3段階
 - 出し合う→比べ合う→まとめる（決める）
- *比べ合うが大切。 ×すぐに多数決

これらを授業に入れます



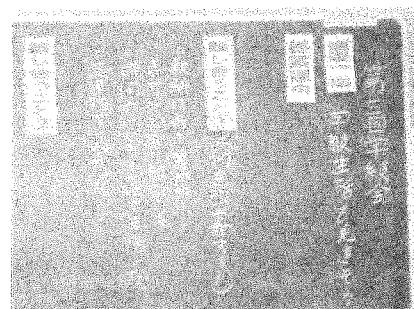
教師の適切な助言



考え・助け合う



折り合いをつける



可視化

8 話合いの例

(1) 「学級生活を見直そう」

第〇回 学級会		議題 学級生活を見直そう	提案理由 一学期もあとわずか、ここで生活を振り返り、二学期につなげていきたい。学校祭もあるし、よりよい生活を送り、最後の学校祭に気持ちよく取り組みたい。
話し合うこと① 改善点を探す、しぼる	ベル席 当番 あいさつがない	話し合うこと② 「あいさつ」をどうやって改善していくか	話し合うこと③ どんな係が必要か
一人ひとりがまず進んで	委員長、班長がひっぱる、みんなで協力する	学級文化班で呼びかけポスター	放送委員会で呼びかけ放送
決まったことの確かめ	決意を書いて、右黒板に貼る	先生の話(前回と比べて、課題・ねざらい・振り返りの予告)	

(2) 「行事を振り返ろう」

第〇回 学級会		議題 宿泊学習を振り返ろう。	提案理由 いいところ、わるかったところを反省し、来年の修学旅行に生かしたい。また、普段の生活もよりよいものにしたいと思います。
話し合うこと① 改善点を探す、しぼる	班行動がよく、自分たちで調べて小樽から宿まで着けた	話し合うこと② 「時間を守る」をどうやって改善していくか	話し合うこと③ どんな係が必要か
話をきらんと聞いた	時間が守れないときがあった	一人ひとりがまず進んで	委員長、班長がひっぱる、みんなで協力する
学級文化班で呼びかけポスターを	学年でもやったほうが	生活係で点検する	決意を書いて、右黒板に貼る
決まったことの確かめ	先生の話(前回と比べて、課題・ねざらい・振り返りの予告)		

9 ここまでの成果と課題（研修部）

- 事前指導・準備委員会、話し合い、実践、事後指導・振り返り（為すことによって学ぶ）流れが構築できた。特に事前の準備。アンケートをとり意識調査し、その結果を可視化（グラフにする）した。そうすることで、問題点を全体で共有することができた。
- 『確かな学力』を育成するためには、まずは内因的な学習意欲が大切であると考えた。（『意欲⇒基礎・基本が身に付き⇒それらを活用し思考・判断・表現力が高まり⇒自ら学び、自ら考え、解決する力が育まれる』）本校では、心の豊かさ、落ち着いた生活は学力向上、部活動での好成績の基盤になっているのではないかと考えている。
- 授業や学級、学年においてルールを守り、互いを認め合い、安心して雰囲気良く学習することにより、心豊かに意欲的に学び基礎・基本が身に付いてきている。（全国学力・学習状況調査結果より）
- いじめの未然防止・早期発見・早期解消。チームで対応する組織力が構築されている。担任は、生徒たちを朝教室で迎えている。副担任は玄関、各階ホールで迎えている。「生徒の活動があるところには、教師の見守る目」のもと、校内体制ができ上がってきている。
- 心の豊かさ（自らを律しつつ、授業のルール、受け方のマナーを守り、発表には心を込めて聞くなど、周りを思いやる心、良い発表に感銘し、正しいことや公正さを大切にする心、他を尊重する心）を、主に特別活動で身に付け伸ばそうとしている。
- 意欲的に学ぶ態度（生き生きと活動に取り組み、発表や様々な活動をして級友に認められる喜びを感じる姿、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、よりよく問題を解決し基礎・基本を身に付ける力）を、日常の授業改善で育てようとしている。
- 生徒が授業に望んでいることは、以下の4点である。
 - ①いろいろ（実験、観察、制作、ゲーム、活動等）なことを体験できる授業づくり
 - ②資料や視聴覚機器を活用した授業づくり
 - ③疑問に思ったことや知りたいことを解決できる授業づくり
 - ④仲間と話し合える、教え合えるなどの形態の工夫による授業づくり
- 特別活動の年間計画における「話し合い活動」の位置づけや道徳や他の領域との関連付けに課題がある。「事前指導・話し合い活動・実践・事後指導（振り返り）」をどの時期に何に取り組み、どんな力を育てたいのかなど。
- 学校全体、学年ごとの特別活動、道徳の構造図や年間計画の見直し。
- 事前指導（準備委員会）の時間の確保。

生き生きと学び、主体的に活動する生徒の育成 ～言語活動の充実をはかった問題解決型学習の工夫を通して～

○主題設定の理由

平成24年度・25年度は「生き生きと学び、主体的に活動する生徒の育成～シラバスを活用した、指導と評価の一体化の工夫～」を主題とした。「単元計画とシラバスの工夫」「問題解決型学習の展開の工夫」「言語活動の充実」の3点を研究の柱とし、生徒の実態を的確に把握しながら、どのような力をどのような場面でどのように育成するかを明確にした授業の構築を目標とした研修を行った。そして、平成26年度・27年度は、副題を「言語活動の充実をはかった問題解決型学習の工夫を通して」として研修を進めてきた。

本校の生徒の実態をみると、「主体的に学習を進め、自らを向上させたり、習得した力を活用し発信する力をさらに育成したりすること」がさらに必要であると考え。これまでの研修で、「グループ学習に抵抗なく意欲的に取り組む姿」や「日常の発表場面で原稿を見ずに考えや感想を述べる姿」などが多く見られるようになってきた。しかし、主体的に周囲と考えを深め合い、そこから話題を広げていくことや、教材、資料などを有効に使用し、そこから読み取れることを意欲的に発言するなどの力の育成という点では、まだ十分とはいえない状況である。また、言語事項を支えるための基礎基本の定着、ノート指導や発表の仕方の工夫などについても引き続き取り組んでいく必要がある。

情報化社会がますます進む中、必要な情報を取捨選択し、さらには、自分の考えをしっかりともち、表現する力をつけていくことが求められる。その力を育むためにも、従前から研究実践してきた主体性の醸成を図るシラバスや自己記録簿の活用を継続し、問題解決型学習など言語事項についての研究実践を深化させ、授業改善を一層進めていくことが重要であると考え。

2 目指す生徒像

- *わかる・できることに喜びを感じ、生き生きと学ぶ生徒
- *学んだことを生かし、自ら考え、課題を解決する生徒

3 研究の仮説

習得した知識や技能を生かして問題を解決する学習過程の展開を通して、知識や技能が確かなものとなり、意欲的かつ主体的に学ぶ生徒が育つであろう。

(1) 「習得した知識や技能を生かして問題を解決する学習過程の展開」について

習得した知識や技能を生かすためには、基礎基本の定着が不可欠である。また、生徒自身がどの既習事項を使って問題を解決するのか、見通しをもって授業に臨む必要がある。問題解決の場面では、生徒が主体的に問題を解決したり、互いの考えを交流したりする場面を充実させる必要がある。

(2) 「知識や技能が確かなものとなり」について

習得した知識・技能を確かなものとするには、まとめ段階（終末）における、振り返りや定着の工夫が必要である。

4 研究で目指す授業像

★シラバス内容の充実～見通しをもち、ねらいを明確にした授業づくり

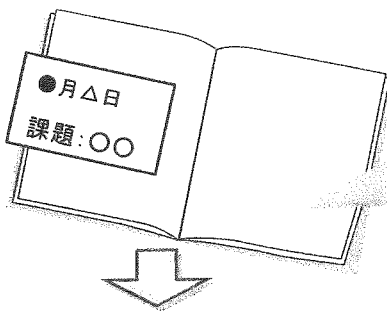
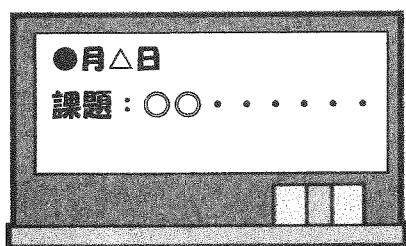
シラバス・自己評価表(第2章 連立方程式(第2節 連立方程式の利用))				
2年 級 氏名 _____				
月日	教科書	学 習 内 容	主な到達目標(課題)	習
				自己評価
✓	P07 P60	連立方程式を利用して、問題を解決する方法を考えてみよう。	係数決定の問題を解くことができる。 係数に関する問題を解くことができる。	A・B・C A・B・C
✓	P40 P41	連立方程式を利用して、問題を解決する方法を考えてみよう。	問題を図示して手帳が理解できる。 代金に関する問題を解くことができる。	A・B・C A・B・C
✓	P42	連立方程式を利用して、問題を解決する方法を考えてみよう。	道のり、速さ、時間の関係が理解できる。 速さに関する問題を解くことができる。	A・B・C A・B・C
✓	P44 P47	第2章のまとめしよう！	学習のまとめ・基本問題 道のり問題	A・B・C A・B・C

○その時間の目標（課題）の明確化

- ・基礎・基本内容の明確化
- ・問題解決型の授業や言語活動の設定
(どの時間にどんな目的で問題解決型学習や言語活動を行うか)

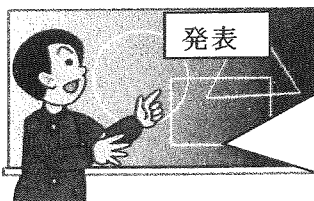
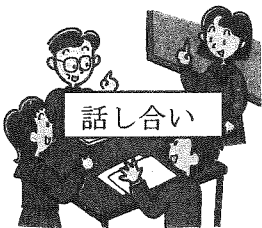
◎授業では

*その時間の課題を明確にし、課題を達成するための授業



シラバスに示された
目標（課題）が、板書やノ
ート、ワークシート等に書
かれている。

★その教科（時間）の課題を達成するための効果的な問題解決型学習や言語活動



授業づくりの視点

- ・その学習活動（問題解決学習・言語活動）は、その教科(時間)のねらいを達成するためのものとなっているか？

※言語能力の育成(話す力、書く力等)は国語科の目標であり、その教科の目標ではありません。例えば、国語科以外の話し合い活動では、「話す力」自体を目標にしてはいけません。

◎説明（表現）することができる＝真の理解、確かな習得

◎伝え合い、学び合うことにより =理解の深まり

★その教科（時間）の課題に対応したまとめと振り返り

授業では…

シラバスでは…



授業では…、板書やノート、ワークシートなどに本時のまとめを書くなど、教師のまとめを必ず行う。

[illegible]

自己評価による振り返り

- ・わかったこと、わからなかったことを明らかにする。

家庭学習との連続性

月 日 水曜日

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

時	第1時	第2時	第3時
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

学習内容の記録

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

月 日 金曜日

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

時	第1時	第2時	第3時
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

学習内容の記録

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

月 日 土曜日

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

時	第1時	第2時	第3時
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

学習内容の記録

朝日 中平太 道成 幸治 道成 浩

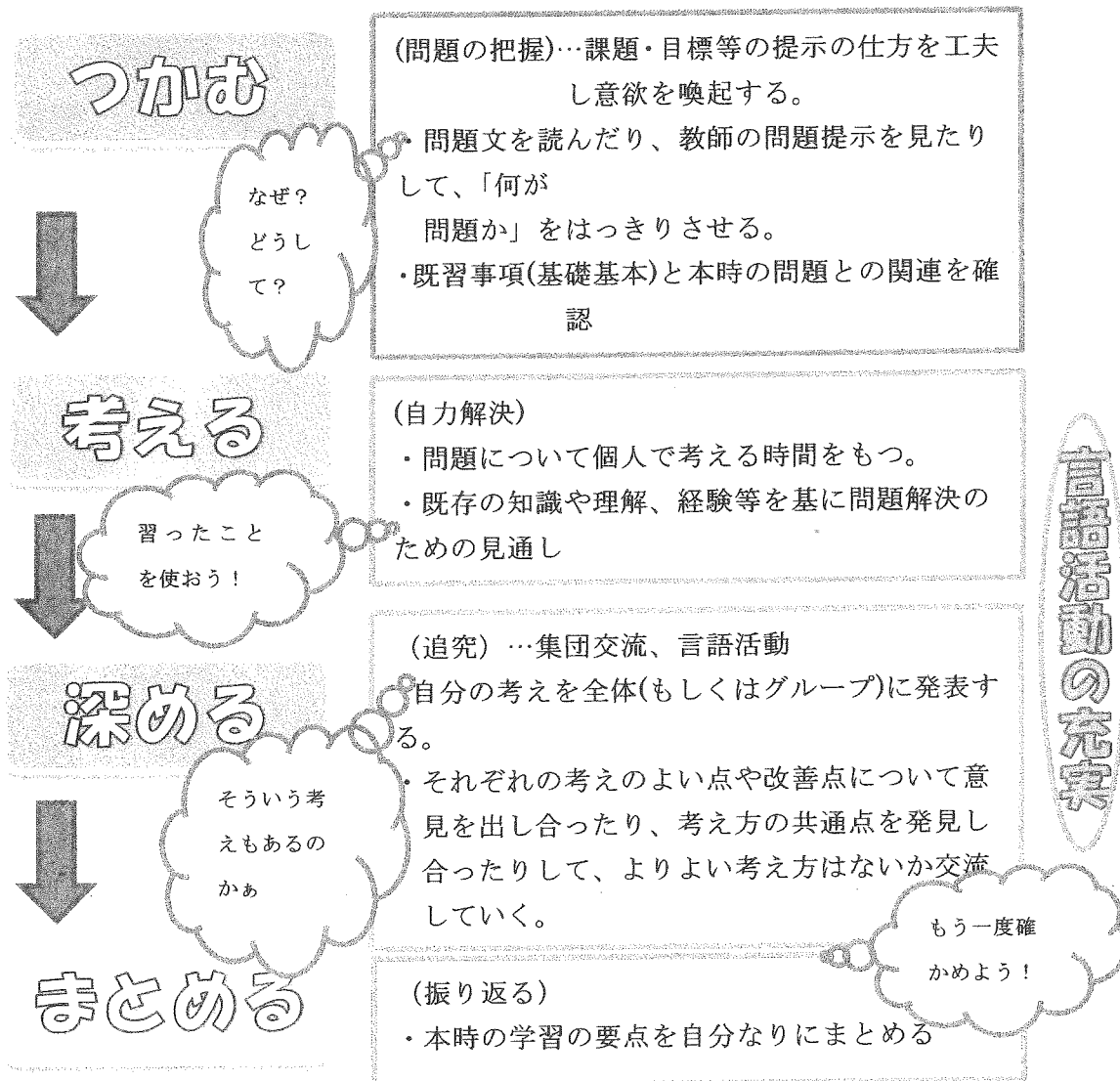
きら星ノートで学習状況を毎日チェック！

5 研究の視点

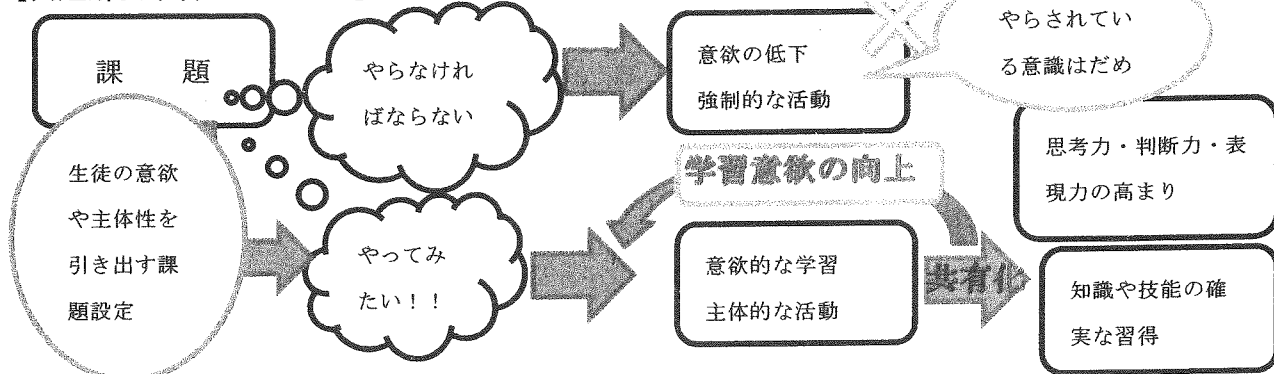
〈研究内容 1〉 問題解決型学習の展開の工夫

- (1) 個に応じた指導方法の工夫
- (2) 主体的・能動的な活動のための発問の工夫
- (3) まとめ段階（終末）における振り返りや定着の工夫

【問題解決型学習のパターン】



【問題解決学習のイメージ】



(1) 個に応じた指導方法の工夫



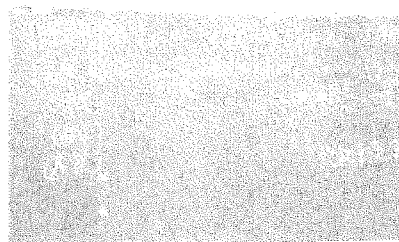
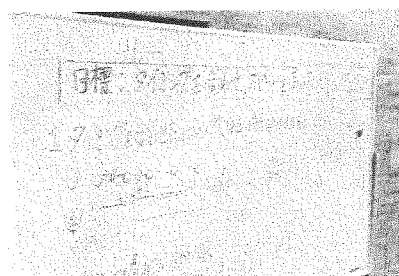
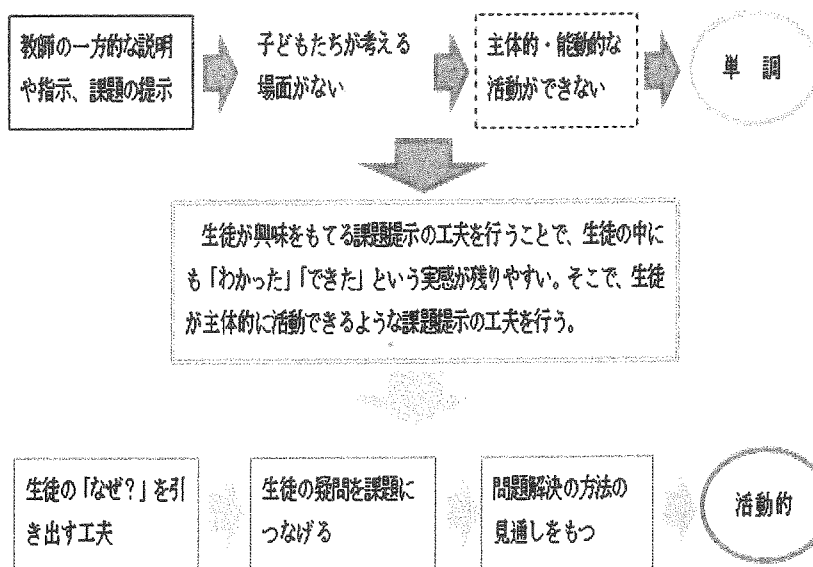
数学のTTの実践

生徒個々の能力、興味関心は異なる
→ 生徒の特性理解し、それに応じた指導をすることが主体性を育むことにつながる

★具体例★

- ・ 個別指導やグループ別指導
- ・ 習熟度別の指導
- ・ 補充プリントでの支援 など

(2) 主体的・能動的な活動のための課題提示の工夫



(3) まとめ段階（終末）における振り返りや定着の工夫

P3-3 ワークシート

ask + 人 to + 動詞の原形 : (人) に～するように勧める。

1) () 内の空を線で通んで、○をつけよう。...

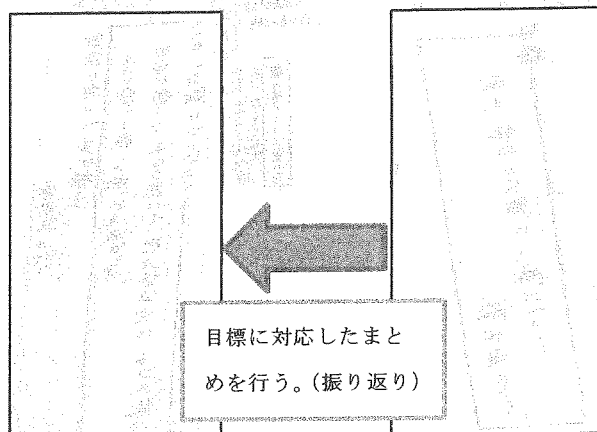
① 私は彼に手を洗うように言いました。...

② 私は弟にラジオを消すように頼んだ。...

③ お母さんは、僕にもっと勉強してほしいと思っています。...

授業の最後にワークシートの演習問題を解く。(定着)

導入をコンパクトにし、まとめ段階(定着)に重点を置く。
→ 必ず目標に対応したまとめをすることが大切。



〈研究内容 2〉 言語活動の充実

(1)ノートやワークシートの工夫

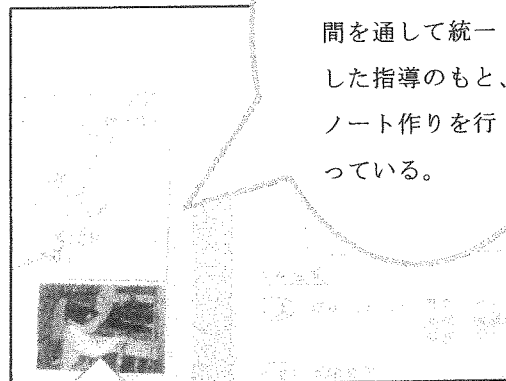
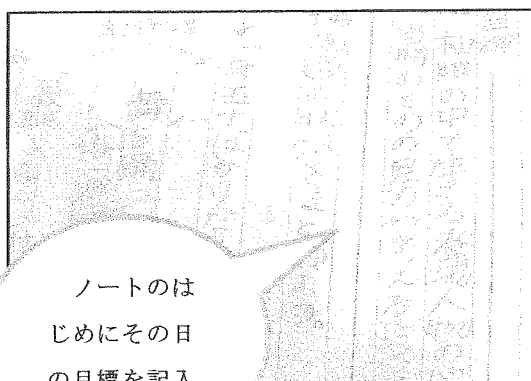
(2)発表の仕方の工夫

(3)学習形態の工夫

(1)ノートやワークシートの工夫

☆自分の考えを整理するために…、

- ① 整理したノートの書き方を工夫させる
- ② 学習の振り返りができるノート作りを心がける



(2)発表の仕方の工夫

☆自分の考えをわかりやすく伝えるために…、

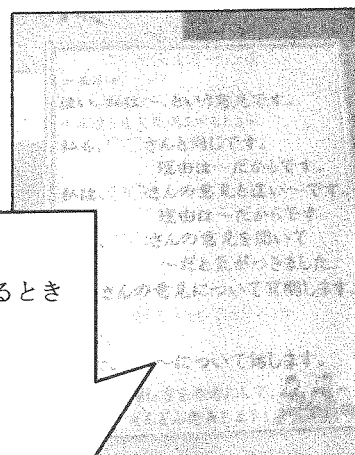
- ① 接続詞を効果的に使う
- ② 発表の仕方の例を教室に掲示する

「発表上手の心得」として、各学級に発表の仕方の例を掲示している。適切に接続語を使うこと、自分の意見を明確に述べることなど、発表をするときの参考となるようにしている。

(例)

・私は〇〇さんの意見と違い～です。理由は～だからです。

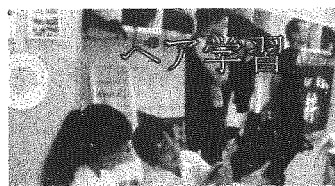
*理由までしっかり述べさせることで、その後の話し合いにも広がり生まれる。



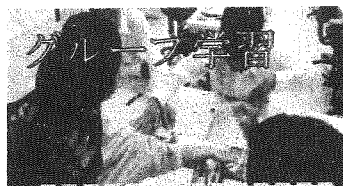
(3)学習形態の工夫

☆お互いの考えをわかりやすく伝え合うために…、

- ① 自分の考えを全体に述べる前に、ペア学習や少人数グループ等を行う
- ② 全体での話し合いのときに、机の配置を工夫する



手軽な交流で、意見がまとまったり、深まったりする。

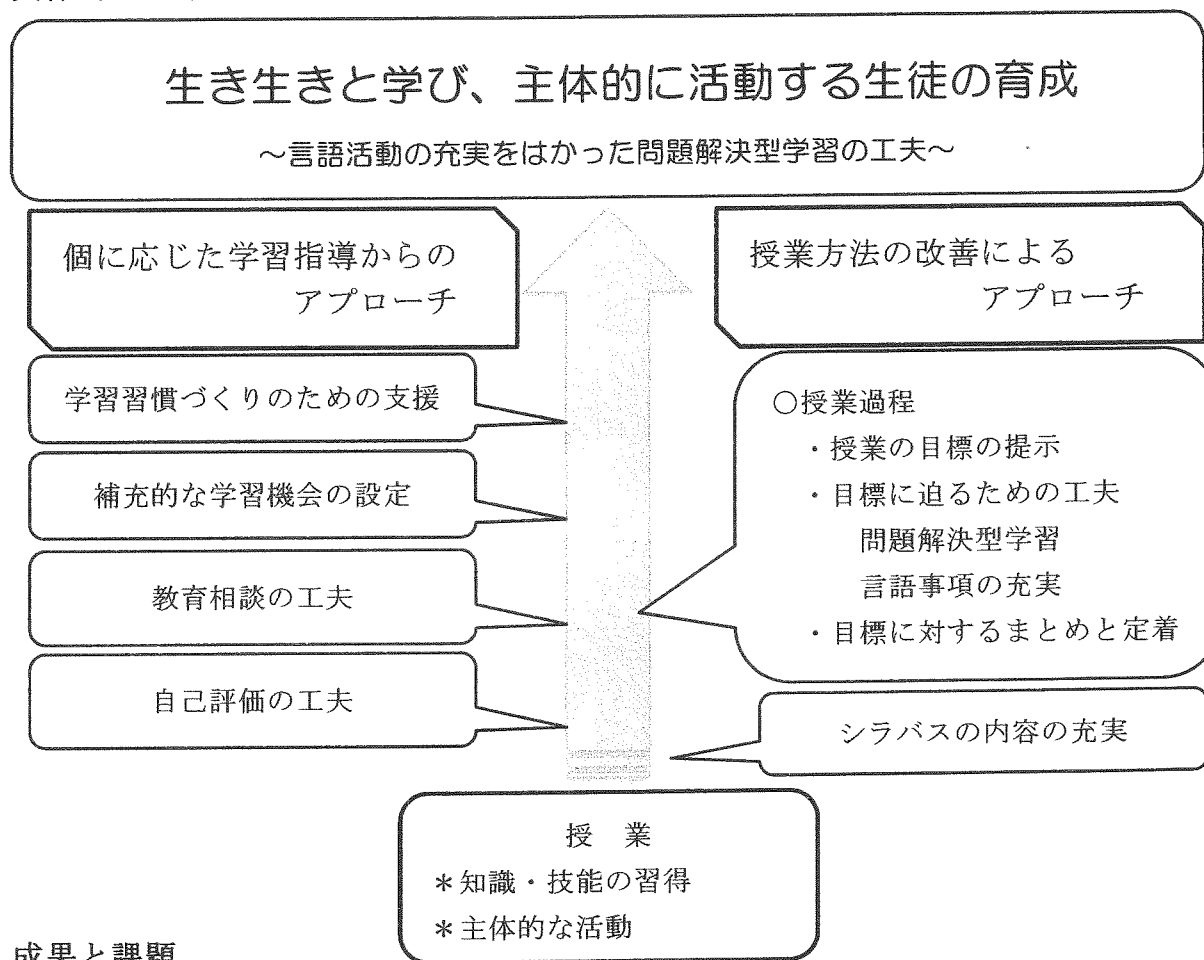


お互いの考えを補ったり、広げたりする。



コの字型やI字型を活用
→相手意識を高める。

6 具体的な方策



7 成果と課題

【成果】

- ・各時間の学習課題を明確に提示したことで、生徒がその時間で何をすべきか捉えやすくなった。そのため、課題に対しての解決方法や疑問を進んで表現できるようになってきた。
- ・生徒が筋道を立てて自分の意見を表現できるようなワークシートやノート作りを意識した。それによって、生徒の表現力が増し、自分の言葉でまとめたり、発表したりできるようになった。
- ・ペア学習やグループ活動を積極的に取り入れたことで、自分の意見に自信をもって発言する姿がみられるようになった。
- ・問題解決型学習の問題点として、生徒の活動時間に時間をかけすぎてまとめを十分に行えず、結局何を学んだのかわからないまま終わってしまうということが挙げられる。そのため、終末部分に着目し、「課題に対応したまとめや振り返り」を行うこと意識して、授業交流を行った。お互いに生徒の様子を見合い、1時間の授業計画について意見交換ができたことで、共通理解をもって授業改善に取り組むことができた。

【課題】

- ・生徒の「なぜ」が生かされたり、「やってみたい」という気持ちが生まれやすくなる課題設定ができるように、教材教具の工夫が必要である。
- ・50分を上手に使うための、課題の量や授業のペースに検討が必要である。
- ・グループ学習に意欲的に取り組むが、生徒同士で高め合う意見交流としては不十分な面が多い。よって、生徒同士が意見を深め合い、高め合っていけるように、教師側で意図的に場を設定したり、発問を考えたりする必要がある。

あとがき

室蘭市学力向上委員会では、昨年度、本市の子どもたちの確かな学力の一層の向上を図るため、「第2期室蘭市学力向上基本計画」（以下、「第2期基本計画」）を策定しました。「第2期基本計画」においては、室蘭市教育研究所の担う役割として、（１）言語活動の充実に係わる研究推進、（２）ICT 活用に係る研究推進、（３）今日的な教育課題に係る研修講座の開催、教育情報の収集・発信の３点が示されました。

本研究所では、これらの方針に基づき、昨年度、研究主題「確かな学力を育む学習指導の工夫・改善」を設定し、４カ年の継続研究に着手したところです。

研究の２年次目となる今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、また、「室蘭の教育」の一層の改善・充実に図る視点から、「第2期基本計画」に示されている各学校における具体的な取組、いわゆる「室蘭アクションプラン（MAP）」と本研究所における教育研究との繋がりをより密接に図るとともに、研究を効果的・効率的に推進すべく、研究組織を①言語活動グループ、②ICT 活用グループ、③課題別研究グループ（道徳教育チーム・外国語教育チーム）に整理し、各グループにおいて調査・研究を進めて参りました。

本紀要は、４カ年継続研究の２年目のまとめとして、今年度の研究内容、公開授業研究や研修講座の概要、さらには、研究奨励校・研究指定校における研究実践等をまとめて発刊するものであり、ぜひ、ご一読いただき、室蘭市の子どもたちの確かな学力の向上のためにご意見をいただけると幸いです。

最後になりましたが、公開授業研究会においてご指導・ご助言を賜りました北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班指導主事様や研修講座等の講師や会場校としてご協力いただきました皆様をはじめ、本研究所にご支援とご協力をいただきました関係各位に心より感謝申し上げ、本紀要のあとがきの言葉とさせていただきます。

室蘭市教育研究所

副所長 高橋 泰明

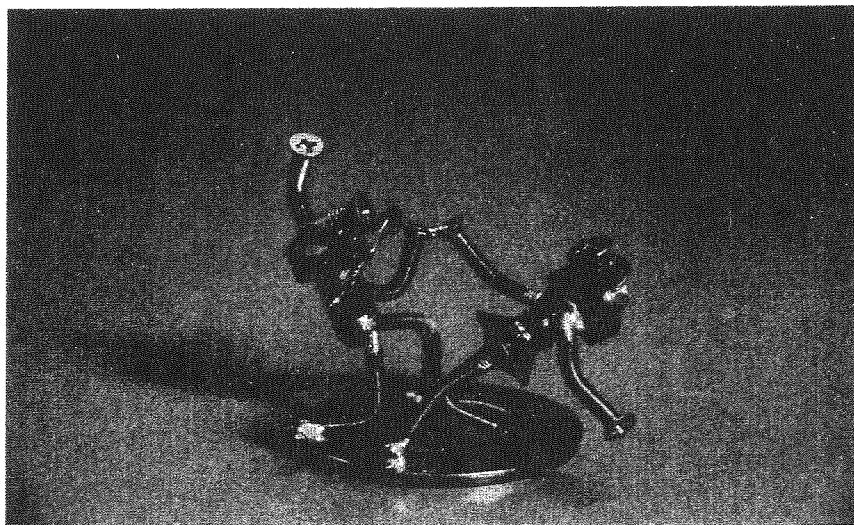
平成 27 年度「室蘭市教育研究所」所員一覧

◎部長 ○副部長

職 名	担 当 部 門	氏 名	所 属	備 考
所 長	課題別研究グループ	高見 恭介	教育委員会	教育指導参事
副 所 長	課題別研究グループ 言語活動グループ	高橋 泰明	本室蘭中学校	教 頭
		中川 圭介	地球岬小学校	教 頭
主任所員	教育研究推進（ICTグ）	本田 章	教育委員会	指導主事
	適応指導教室(言語・相談部)	杉野 亮	教育委員会	指導主事
事務局長	教育研究（課題別研究 G）	入江 祐史	教育研究所	研究推進員
アドバイザー	教育研究（課題別研究 G）	澤田 光男	教育委員会	国際理解教育推進員
所 員	研究部 言語活動グループ	○二宮友東子	海陽小学校	教 諭
		小田中栄人	高砂小学校	教 諭
		真崎さやか	高平小学校	教 諭
		◎縣 宏光	室蘭西中学校	教 諭
		内山 泰弘	翔陽中学校	教 諭
		坂本 文恵	本室蘭中学校	教 諭
	研究部 ICT 活用グループ	椎名 孝	みなと小学校	教 諭
		大矢 和佳	水元小学校	教 諭
		◎上杉 洋介	八丁平小学校	教 諭
		梅田 孝裕	星蘭中学校	教 諭
		○渡邊 朋人	港北中学校	教 諭
	研究部 課題別研究グループ (道徳教育チーム)	渡辺 浩輔	旭ヶ丘小学校	教 諭
		◎難波 茂伸	八丁平小学校	教 諭
		○北原 英法	桜蘭中学校	教 諭
	研究部 課題別研究グループ (外国語教育チーム)	◎相馬 和俊	海陽小学校	教 諭
		佐藤はるひ	知利別小学校	教 諭
		○桐 敦子	東明中学校	教 諭

適応指導教室（くじらん教室）関係

室 長	教育相談室 適応指導教室	矢 元 政 行	知利別教室	教育相談員
		高 橋 良 輔	白鳥台教室	
		佐 藤 務	蘭 西教室	(兼) 学習支援員
支 援 員	教育相談室 適応指導教室	高 橋 祥 子	知利別教室	訪問アドバイザー
		河 野 善 子	知利別教室	
		遠 藤 哉 子	白鳥台教室	
		田 口 直 子	蘭 西教室	
		中川原 正 子	知利別教室	学習支援員
		本 田 康 子	白鳥台教室	



(ボルタとナッティ)

研究紀要 第50号

『 確かな学力を育む

学習指導の工夫・充実 』

発 行 平成28年3月14日

発行所 室蘭市教育研究所

〒051-0036 室蘭市祝津町 2-7-30

TEL (0143) 26-2888

FAX (0143) 27-1900

発行者 所長 高見 恭介

製本所 株式会社日光印刷

